
豆タロウのほのぼの日記

雪樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

豆タロウのほのぼの日記

【Nコード】

N2615H

【作者名】

雪樹

【あらすじ】

黒柴豆タロウと家族の日々のやりとりをのほほんとして豆タロウ目線でお送りします。

ブローグ

『あー、めんどいなあ……』

この家にきて豆タロウの名前をもらってから早2年がたった。

初めてこの家に来た時のこと今でも覚えてる。

だって家族総出ですごい出迎えだったし…。

ボクの家族はボクを散歩してくれるバーちゃん。

やたらちよつかいをかけてくるママ。

夜遅く仕事から帰ってくるとボクが寝ていても小屋を叩いて起こす
パパ。

大学生で忙しいねーちゃん。

ボクが遊び相手になってやってるねーちゃんの弟。

そして黒柴のボク豆タロウの1匹と5人家族。

いたって普通の犬好き家族。

犬好きっていうかボク好き。

まあ、ボクもそれなりにみんなが好きだけど。

だってボクは誰よりも家族を知ってるからね。

ボクとバーちゃん

「豆タロウ、散歩いくよ」

夕方、いつも同じ時間にバーちゃんが出てくる。

『はいはい、嬉しいー…ホントはまだゴロゴロしてたいけどね』

とりあえず尻尾振ってピョコピョコしておく。

それだけでバーちゃんは喜んでくれるから。

バーちゃんのこととはボクも好きだし。

ただ……一ついわしてもらおうとさ…。

「あら、田中さんじゃない。最近なかなか会わなかったわねえ。チヨコちゃん元気だったあ？」

散歩コースでたまに会うチヨコんちのおばさんとはったり。

『始まった、バーちゃんの井戸端会議。早く帰りたいのに』

尻尾下げてつまらないって気持ちを強調してみる。

…まあ無駄な努力だけど。

『何分で終わると思う？』

『さあ、20分は確実ね』

チヨコはお姉様系のミニチュアダックス。

なのに散歩の時決まってフリフリフワフワの服を着てる。

『着たくて着てるわけじゃないわ。今日だってママの手をひっかいてやったもの』

フンツとチヨコはそっぽを向いて、おばさんにアピール。

まあそれも無駄なんだけど。

「それじゃあまたね、チヨコちゃん」

やっと終わった。

『ジャスト30分。じゃあまたねチヨコ』

『できるものなら会いたくないけど』

そうだね、会わなければもう家に着いてるもんね。

この後リッキーンちのおじさんにも会って、同じく30分。

そう、だからね？

1ついわしてもらうとね？

所要時間30分で済む散歩コースを1時間半もかける必要はないん

じゃないかな。

… 1時間半ですめばまだマシだけど。

やつとの思いで帰ってきて庭に放してもらっ。

「あー、よいしょ」

バーちゃんは庭にあるベンチに腰をおろしてる。

「疲れたねえ、豆タロウ」

『そりゃ、1時間以上も突っ立って話してりゃ疲れるの当たり前だし…』

ってボクは毎日つつこんでる。

疲れるのはボクだって同じだし。

でもさボクは長い井戸端会議も付き合っよ。

だってやっぱりバーちゃん好きだからさ。

ボクとママ

「うりゃうりゃ！」

毎朝ママは仕事に行く前ボクにちよっかいをかける。

ちよっかいかけるヒマがあるなら早く会社いけばいいのに。

耳をひっぱったり、ほっぺをひっぱったり、やりたい放題……。

『いい加減怒ろうかな』

ウワンッ！

「お！やるか？！」

『ヤバイ……。逆効果だ』

ママのちよっかいは度を増すばかり。

かといって、本気で噛みついたりはしないんだ。

それでもボクの方が精神的に大人だからね。

ママはいつだって元気……っていうかパワフル。

ボクはママに付き合っ一緒ににはしゃいであげるけど、ママが会社にいった後はいつもぐったり。

だってハンパなく疲れるんだもん。

まあ、ボクは会社も学校もないからいいけどね。

やっとゆつくりできるボクだけの時間。

でも1日が過ぎてママが仕事から帰ってくると、またちょっかいかけてくる。

『朝も遊んだのにママよくあきないね』

って見上げてみると、たいていお菓子を片手に持ってる。

「どっちに入ってるでしょーか!」

…… 毎度毎度、ボクのことバカにしてる？

『こっち』

鼻でツンツとママの左手を触る。

「ホントにこっちでいいのー？」

どっちでもいいから早くくれればいいのに。

もう1回ツンツとする。

「チツ、ばれたか」

ママは悔しそうにすけど、ボクに勝てると思う方が間違いだよね。

『っていつか、ママ夕食の支度しなくていいの?』

ボクは家の中を見ながら首を傾げてみる。

「さーてと、今日のご飯何かなあ」

『……ん?』

ママはよくねーちゃんにご飯作らせてる。

理由はなんとなくわかる。

だってねーちゃんのご飯のがおいしい。

「よし、風呂入っちゃお」

ママはいつて家の中に入った。

『あー、疲れた』

ママはいつもこんな感じ。

たまには本気で噛みついてやりたい時もあるけど、我慢してあげる。

だってこれでもボク知ってるから。

ママが毎日仕事頑張ってること。

だからね、ちょこつとだけお疲れ様って思ったりもしてるよ?

ボクとパパ

「豆タ!!」

その声と同時にボクの小屋の屋根がバンバンと音をたてる。

もう夜もだいぶ遅い時間、パパが仕事から帰ってくる。

『つていつかボクの名前は豆タロウなんだけど』

眠りに落ちてたボクは顔だけ小屋から出してパパを見る。

パパはいつもボクを豆タつて呼ぶ。

その方が短くて呼びやすいとかいってた。

そりゃあそうかもしれないけどさあ。

「豆ター、お前だけが俺の帰りを待っていてくれてるんだよなあ」

パパはボクの頭をなでながらいう。

……なでながらっていつか、軽く叩きながら？

『みんなパパのこと待っていてくれると思うよ?……たぶんね。つていつか頭痛いんですけど』

ボクはしょうがないから小屋から出て、パパの横にお座りする。

それから、少しパパの愚痴に付き合っただげるんだ。

「もうやんなっちゃうよなあ」

『うんうん、そうだね、よくわかんないけど』

とりあえず相槌しとく。

ボクの得意技。

しばらくするとパパは納得して家に入っていく。

そうすると必ず聞こえるよ？

ねーちゃんの「おかえり」がね。

ほらね？

みんなパパを待ってるでしょ？

「ちゃんとコンビニでアイス買ってきた？」

……。

まあ、そんな時もあるよ。

みんなが待ってたのは、事前に買って来て頼んでおいたアイス

……なんて時もね。

でもやっぱりみんなパパを待ってるんだよ。

ボクもちゃんと待ってるよ？

眠りを妨げられるのはやだけど……。

ボク知ってるからね。

パパが仕事で疲れて帰ってくることに。

愚痴ならいくらでも聞いてあげるよ。

しょうがないからさ。

だから明日も頑張って。

って思ったりしてるからね。

ボクとねーちゃん

「たらいまあー」

ねーちゃんが学校から帰ってくる。

『おかえり… ってまたひどい顔だね。大丈夫？』

ねーちゃんは大学2年生。

お医者さんになるために毎日勉強してるんだって。

早く帰ってくる時もあるし遅く帰ってくる時もあるけど、ねーちゃんはいっつも疲れた顔してる。

庭のベンチに腰掛けて、軽く意識が違う世界にいつてることが多い。

違う意味で心配になる。

ねーちゃんの前までいって前足をねーちゃんの膝にのせる。

そうするとねーちゃんはゆっくりボクを見て小さく笑う。

ねーちゃんをちゃんと現実に戻すのがボクの役目かも。

「チビ豆ー、代わりに勉強してよ」

『うん、ムリ』

ねーちゃんはボクの名前を毎日適当に呼ぶ。

今日はチビ豆、昨日は豆スケ、一昨日は枝豆……だったかな？

たまに豆もタロウもつかない日もある。

「あー、付属推薦じゃなくて外部出てもちゃんと獣医学部受ければよかった」

ねーちゃんの小さい頃からの本当の夢は動物のお医者さんになることだったって一週間に一度は聞いている。

ママがねーちゃんにお医者さんになってほしかったらしくて、ねーちゃんは一生懸命応えようとしてる。

学校のない日も1日中、勉強。

『少し休めば？まあきつとムリなんだろうけど』

ねーちゃんがため息つく。

「どーせ医学を学ばなさらさ、自分の好きな方にいった方が絶対充実したキャンパスライフ送れたと思わない？」

ねーちゃんがボクの頭をなでる。

『そりゃあ、ねーちゃんの夢だしね』

ねーちゃんはママやパパと違ってボクに優しい。

でも……。

「もし私が獣医さんになれてたらチビ豆のことただでみてあげたのにね」

『そうだね。でも、それは遠慮しとく』

だって、身内にみてもらうのってなんかやじゃん？

信用してないわけじゃないよ？

ただなんか照れるよね。

「さあ、勉強しなきゃ！じゃあねチビ豆」

『はいはい、頑張つてね』

ねーちゃんが家の中に入ってく。

ねーちゃんはママやパパに絶対弱音をはかない。

けどね？

ボク知ってるんだ。

ねーちゃんが1回だけ泣いてたの。

ねーちゃんが本当はすごく辛いのがわかってるからさ。

だからボクが代わりに聞いてあげる。

っっていうかボクがいなきゃ、ねーちゃん違う世界いっちゃうし。

ボクがつなぎとめてあげてるんだ。

ねーちゃんがあんまりムリしすぎないようにね。

だってさ、ねーちゃんのこと心配だからね。

ボクと弟

「豆タロウ、おはよう、行ってきまーす！」

朝、ドタバタとものすごい音をたててねーちゃんの弟が家を出て行く。

『行つてらっしゃーい。……もっと静かにできないのかな』

弟のヤツは小学校5年生でうるさい盛り。

通つてる小学校までは徒歩5分…だからなのか毎日ギリギリ。

もうちょっと余裕もてばいいのに。

やっと静かになったと思ったら、小学生はあつという間に帰ってくる。

せつかくの静かな時間が一瞬でなくなっちゃう。

「今日、涼介くるから！」

1人だけでも十分うるさいのに…うるささ倍増。

「それから、あと結里と夕斗も来る！」

『うわっ……うるささ4倍』

これで静かにゲームでもしててくれればいいのにさ。

ばーちゃんてば子供は外で遊べなんていっちゃう。

そうするとガキンチョのサッカーに付き合わされるんだよね。

でも、ボクがそのへんのガキンチョに負けるわけないし。

結局、ボクからボールとれなくてみんながばててる。

「豆タロウ、ボール返せえ〜」

『情けないなあ』

最近の子供って体力ないのかな。

まあ、早く解放されたいから返してあげるけどね。

さんざん騒いでやっとガキンチョ達が帰ると、ちよつと静かになる。

…なつてくれなきゃ困る。

なのに、友達が帰ってまだ遊び足りないのか、またボクのところに来る。

しょうがないから付き合っただげるけどね。

子供のうちは元気なことにしたことないもんね。

ってばーちゃんがいつてた。

まあ、たまにはゆつくりしたい時もあるけどさ。

弟のやつが中学生に上がるまでは遊んであげる。

しょうがないからね。

弟のやつはボクの子分だから。

親分は子分のめんどろみでやらなきゃね。

それに何かあったときは親分として守ってあげてもいいよ？

ボクの方がケンカ強いし。

だつてね？

弟のやつはねーちゃんの弟であり、ボクの子分でもあるんだから。

エピソード

「豆タロウ！今日はバーベキューするよ！」

日曜日の朝、ママが庭に大きなパラソルを開いた。

パパがバーベキュー用のコンロやら鉄板やら運んでくる。

ばーちゃんが切り分けた野菜やお肉を、弟のやつが皿やコップを持ってきてテーブルの上に広げた。

ねーちゃんは勉強ノート片手に炭に火をつけてる。

ボクはというとそんなみんなを目で追ってるだけ。

それに飽きたら、ふと空を見上げてみる。

空は雲一つない青。

そんな空を見てたら、一瞬だけ周りの音が聞こえなくなるんだ。

この世界にまるでボクだけしかないみたいだ。

でもそれは寂しい。

「豆タロウ？」

ボクを呼ぶ声。

見上げればねーちゃんがいた。

「黒豆つたら寝てたの？」

ねーちゃんが優しく笑ってボクの頭をなでる。

『…うん、寝てたのかも』

「ほら、準備できたから黒豆もおいで」

いつの間にかバーベキューはスタートしてて、ねーちゃんはボクを呼びにきたんだ。

テーブルの周りにはばーちゃんとママと弟のやつがいて、その横のコンロのところにパパがいる。

そしてボクの隣にねーちゃん。

「豆タロウ！早くこないと、あげないよ？」

「豆タロウの好きなもちやんと買ってきてあるんだよ？」

「豆タロウ、食べ終わったらサッカーだからな！」

「豆タ、こいつら食ってばっかで俺1人だから、早くこっちきてくれよ」

みんなボクを待ってる。

「ほら、早く行こ？」

『うん、今行く』

いつもにぎやかで、一息つくようなヒマなんてほとんどない。

……だけど。

やっぱりみんながいるのがいいんだよね。

みんながボクを好きなように、ボクもなんだかんだみんなが大好きなんだよね。

だって、家族だもんね。

「豆タロウ！」

『まったくもう。ボクがいなきゃみんなダメなんだから』

ボクは駆け出すよ？

大好きな家族のそばにね――

エピソード（後書き）

最後までお付き合いくださり、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2615h/>

豆タロウのほのぼの日記

2010年10月9日16時57分発行